

(5) 中富健康科学振興賞 (交付金額:200万円)

平成30年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴	
氏名	飯島 正文 (いじま まさふみ)
推薦学会	公益社団法人 日本皮膚科学会
学歴及び職歴	昭和48年 9月 東京大学卒業 昭和48年11月 1日 東京大学医学部皮膚科学教室入局 助手 (医学部附属病院) 昭和55年 8月29日 助手休職。 米国立衛生研究所 (NIH) にて在外研究 昭和58年 7月29日 帰国。助手に復職 同 10月16日 東京大学・講師 (医学部附属分院皮膚科病棟医長) 昭和60年 9月 1日 昭和大学医学部皮膚科 助教授 平成7年 4月 1日 昭和大学医学部皮膚科 主任教授 平成14年 4月 1日 昭和大学病院 副院長 平成16年 4月 1日 昭和大学病院 病院長 平成23年 3月31日 同上 退任 平成24年 3月31日 昭和大学医学部皮膚科教授 退職 平成24年 4月 1日 昭和大学名誉教授 同 8月 1日 新百合ヶ丘総合病院 皮膚疾患研究所 所長 現在に至る
役職 (日本皮膚科学会)	代議員 (昭和63年～平成14年) 理事 (平成14年～平成20年) 副理事長 (平成20年～平成22年) 理事長 (平成22年～平成24年) 名誉会員 (平成29年～)
役職 (本会外)	日本研究皮膚科学会 評議員 平成 元年～平成24年 日本乾癬学会 評議員 平成 8年～平成10年 " 理事 平成10年～平成24年 日本香粧品学会 評議員 平成 5年～平成11年 " 理事 平成11年～平成24年 日本皮膚悪性腫瘍学会 評議員 平成12年～平成24年 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 評議員 平成12年～平成24年 内科系学会社会保険連合 内保連委員 平成 8年～平成12年 外科系学会社会保険委員会連合 外保連委員 平成 9年～平成12年 日本医師会 疑義解釈委員会 委員 平成12年～平成22年
官公庁等	(厚生労働省) 中央薬事審議会 医薬品副作用被害判定調査会、同部会 委員 平成 9年～平成12年 薬事・食品衛生審議会 副作用・感染等被害判定部会 委員 平成12年～平成17年 同部会長代理 平成17年～平成19年 同部会長 平成21年～平成28年 重篤副作用総合対策検討会 委員 平成17年～ 現在 上記他 薬事分科会、特定疾患対策懇談会、診断群分類研究班、医療技術参与等多数 ○厚生労働科学研究班 重症多形滲出性紅斑 (急性期) に関する調査研究 分担研究者 平成16～21年度 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究 分担研究者 平成22～23年度 (独立行政法人医薬品医療機器総合機構) 専門委員 平成16年～ 現在 (文部科学省) 専門的看護師・薬剤師等 医療人材養成事業選定委員会 委員長平成23年～平成24年
受賞歴	日本医師会優功賞 (平成21年11月 1日) 財団法人日本リディアオリリー協会 安田・阪本記念賞 (平成23年2月12日)
主な業績	Iijima M. Katz SI. : Specific Immunologic Tolerance to Dinitrofluorobenzene Following Topical Application of Dinitrothiocyanobenzene: Modulation by Suppressor T Cells : J Invest Dermatol, 81:325-330, 1983 他多数

(5) 中富健康科学振興賞（交付金額:200万円）

平成30年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴	
氏名	丸毛 啓史（まるも けいし）
推薦学会	公益社団法人 日本整形外科学会
学歴及び職歴	<p>昭和56年 3月 東京慈恵会医科大学卒業</p> <p>昭和57年 4月 東京慈恵会医科大学大学院医学研究科外科系整形外科学専攻博士課程入学</p> <p>昭和59年 6月 米国コネチカット州立大学医学部整形外科学講座へ留学</p> <p>昭和61年 3月 東京慈恵会医科大学大学院単位取得</p> <p>昭和61年 8月 米国デラウェア州立大学海洋学講座へ留学（昭和62年1月帰国）</p> <p>昭和62年 2月 東京慈恵会医科大学整形外科学講座助手</p> <p>平成元年 11月 学位（医学博士）取得</p> <p>平成 5年 3月 東京慈恵会医科大学整形外科学講座講師</p> <p>平成12年 11月 同上講座准教授</p> <p>平成18年 4月 東京慈恵会医科大学整形外科学講座教授（現職）</p> <p>平成25年 4月 東京慈恵会医科大学附属病院長（現職）</p> <p>平成25年 4月 学校法人慈恵大学理事（現職）</p>
主な学会における役職	<p>日本整形外科学会理事長（平成27年5月20日～平成29年5月17日）</p> <p>日本整形外科学会副理事長（平成25年6月22日～平成27年5月20日）</p> <p>日本整形外科学会財務委員会担当理事（平成25年6月～平成27年5月）</p> <p>日本整形外科学会情報管理システム委員会担当理事（平成25年6月～平成27年5月）</p> <p>日本整形外科学会学術集会運営委員会委員（平成25年6月～）</p> <p>日本医学会評議員（平成27年5月～平成29年5月）</p> <p>日本医学会連絡委員（平成25年6月～平成27年5月）</p> <p>日本医学会法人化準備委員会委員（平成25年6月～平成27年5月）</p> <p>日本整形外科スポーツ医学会監事（平成27年9月～）</p> <p>日本整形外科スポーツ医学会理事（平成25年9月～平成27年9月）</p> <p>日本運動器科学会評議員（平成21年7月～）</p> <p>日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）評議員（平成21年6月～）</p> <p>日本関節鏡学会評議員（平成15年12月～）</p> <p>日本膝関節学会評議員（平成14年3月～）</p> <p>日本人工関節学会評議員（平成25年2月～）</p> <p>東日本整形災害外科学会監事（平成25年9月～平成29年9月）</p> <p>東日本整形災害外科学会評議員（平成10年5月～）</p> <p>日本バイオマテリアル学会評議員（平成20年4月～）</p> <p>日本軟骨代謝学会評議員（平成8年3月～）</p>
その他役職	<p>公益財団法人整形災害外科学研究助成財団監事（平成29年6月～）</p> <p>一般財団法人運動器の健康・日本協会理事（平成27年12月～）</p> <p>全国医学部長病院長会議常任理事（平成25年4月～平成26年5月）（平成30年5月～）</p> <p>独立行政法人日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（平成24年12月～平成26年11月）</p> <p>文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員（大学設置分科会）（平成25年4月～平成26年3月）</p> <p>Fellowship, The Royal College of Surgeons of England（平成28年4月～）</p>
受賞	平成18年度上原記念生命科学財団 研究助成受賞（平成19年3月）
研究業績（主な原著）	<p>1) Marumo K, Waite J H. Optimization of hydroxylation of tyrosine and tyrosine-containing peptides by mushroom tyrosinase. <i>Biochim Biophys Acta</i> 1986;872:98-103.</p> <p>2) Marumo K, Waite J H. Prolyl 4-hydroxylase in the foot of the marine mussel <i>Mytilus edulis</i> L.: Purification and characterization. <i>J Exp Zoology</i> 1987;244:3653-3674.</p> <p>3) 丸毛啓史. 接着性蛋白質-polyphonic protein-の組織接合剤としての応用に関する研究. <i>日整会誌</i> 1989;63:852-859.</p> <p>4) Marumo K, et al. The “ligamentization process in human anterior cruciate ligament reconstruction with autogenous patellar and hamstrings tendons: A biochemical study. <i>Am J Sports Med</i> 2005;33:1166-1173.</p> <p>5) Marumo K, et al. MRI study of bioabsorbable poly-L-lactic acid devices for fixation of fracture and osteotomies. <i>J Orthop Sci</i> 2006;11:154-158.</p> <p>6) Saito M, Marumo K. Collagen cross-links as a determinant of bone quality: a possible explanation for bone fragility in aging, osteoporosis, and diabetes mellitus. <i>Osteoporosis Int</i> 2010;21:195-214.</p> <p>7) Maeda K, Marumo K, et al. Wnt5a-Ror2 signaling between osteoblast-lineage cells and osteoclast precursors enhances osteoclastogenesis. <i>Nat Med</i> 2012;18:405-412.</p> <p>8) Saito M, Marumo K, et al. Treatment with eldcalcitol positively affects mineralization, microdamage, and collagen crosslinks in primate bone. <i>Bone</i> 2015;73:8-15.</p> <p>9) Kayama T, Marumo K, et al. Gtf2ird1-dependent Mohawk (Mkx) expression regulates mechanosensing properties of the tendon. <i>Mol Cell Biol</i> 2016;36:1297-1309.</p> <p>10) Miyasaka T, Marumo K, et al. Accuracy of computed tomography-based navigation-assisted total knee arthroplasty: outlier analysis. <i>J Arthroplasty</i> 2017;32:47-52.</p>